

令和 5 年度  
中津市観光アンケート調査報告書

令和 6 年 7 月  
観光課

## 目次

1	調査概要	P3
2	各項目のあらすじ	P7
3	本調査の結果分析	
	○属性分析	P9
	○問1分析	P13
	○問2分析	P15
	○問3分析	P17
	○問4分析	P18
	○問5分析	P20
	○問6分析	P21
	○問7分析	P24
	○問8分析	P25
	○問9分析	P27
	○問10分析	P28
	○問11分析	P29
	○問12分析	P30
4	本調査総括	P31

### ※注意

割合は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない。

## 1 調査概要

### ○調査の目的

本調査は、中津市へ来訪する観光の動態を把握するために平成 30 年度（2018 年度）から開始した。

従来の観光動態調査（中津市観光入込客数調査、市内宿泊者数調査）の方法では捉えられなかった観光客の属性や観光の実態等を把握し分析することで、より効果的な観光事業の実施を目指す。また、調査結果を地域へフィードバックし、地域一体となった観光まちづくりを目的としている。

### ○調査方法（二次元バーコード設置による調査）

観光マーケティング調査の一環として、令和 3 年度まで GW シーズンや秋の紅葉シーズンに、聞き取りにてアンケート調査（2 人 1 組×3 班、各 3 時間）を行っていたが、時期、場所の偏りがあること、聞き取り人数に限られるという課題点があった。

そこで、令和 4 年度から下記の観光施設等に常設で二次元バーコード読み込み式のアンケートを設置する方法を採用し、令和 5 年度も引き続き、二次元バーコード設置型のアンケートで来場者を中心に調査を行った。

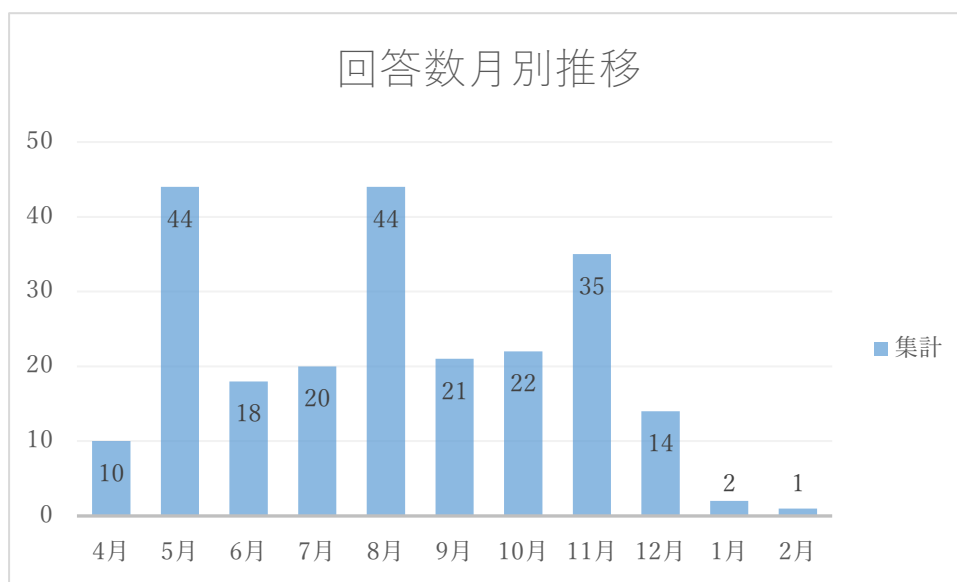
### ○二次元バーコードの設置場所

旧市内エリア	①中津駅
	②福澤記念館
	③中津市歴史博物館
	④道の駅なかつ
	⑤あげ処ぶんごや
三光エリア	⑥八面山荘
本耶馬溪エリア	⑦道の駅耶馬トピア
耶馬溪エリア	⑧耶馬溪サイクリングターミナル
	⑨深耶馬溪観光案内所
山国エリア	⑩道の駅やまくに

○調査期間及び収集サンプル数

令和5年4月20日～令和6年2月23日 収集サンプル数 合計231名

・回答数月別推移



※アンケート調査期間中の影響事由

■増加要因

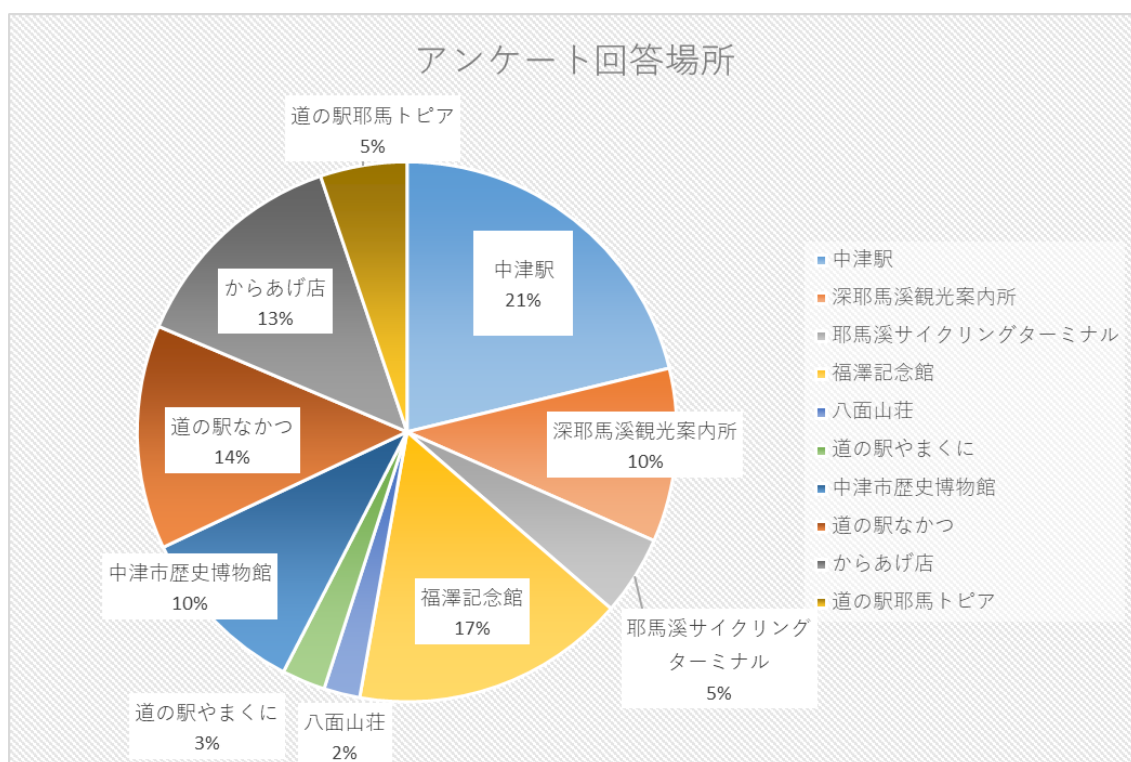
- ・ 5月8日～ 新型コロナウイルス 5類移行
- ・ 7月28日～7月30日 中津祇園
- ・ 7月中旬～8月下旬 夏休み期間
- ・ 8月26日～8月27日 鶴市花傘鉾祭り
- ・ 10月4日～10月22日 三光コスモス園 開園期間
- ・ 10月28日～10月29日 からあげフェスティバル
- ・ 11月上旬～11月中旬 紅葉シーズン

■減少要因

- ・ 6月30日頃～7月10日頃 九州北部豪雨

○回答場所

中津駅	49 名
福澤記念館	38 名
中津市歴史博物館	24 名
からあげ店(あげ処ぶんごや)	31 名
道の駅なかつ	31 名
八面山荘	5 名
道の駅耶馬トピア	12 名
耶馬溪サイクリングターミナル	11 名
深耶馬溪観光案内所	24 名
道の駅やまくに	6 名
合計	231 名



### ○質問事項

・調査日 ・居住地域 都道府県／市町村 ・性別／年齢

- 問1. このアンケートの二次元バーコード読み込み場所を教えてください。
- 問2. 今回の中津（耶馬溪を含む）旅行は何回目になりますか。（4 択中1つ選択）
- 問3. 今回の旅はどれに該当しますか。（8 択中1つ選択）／来訪人数
- 問4. 今回の旅はいつ計画しましたか。（5 択中1つ選択）
- 問5. 今回の旅の情報源を教えてください。（1 1 択中複数選択可）
- 問6. 今回の旅の目的を教えてください。（6 択中複数回答可）
- 問7. 今回の旅はどれに該当しますか。（3 択中1つ選択。記入あり）／日帰り・宿泊
- 問8. 今回の旅全体の予算額を教えてください。（金額記入）
- 問9. 今回の旅の交通手段を教えてください。（1 1 択中複数選択）
- 問10. 今回の旅では、中津の観光地でどこを訪れます（した）か。（2 1 択中複数選択）
- 問11. 今回の旅で一番心に残ったグルメを教えてください。（自由記述）
- 問12. 再び、なかつに旅行に来たいと思いますか？（5 択中1つ選択）
- 問13. 中津市内の観光で困ったことはありますか。（自由記述）

## 2 各項目のあらすじ

### (居住地)

近畿地方については昨年に引き続き人数が増加していることから、九州方面への関心が比較的高い地域であることが考えられる。

九州・沖縄地方からの来訪者割合は、60.6%（前年比2.6%減）となり、市町村別では、大分市、北九州市、日出町が上位3位となっている。

### (年齢)

年齢層は50代が24.7%、60代が15.6%と令和4年度に比べ割合が増加している。令和4年度で上位を占めていた30代・40代も20%台となり、30代以上が約85%を占めている結果となった。

### (訪問回数)

訪問回数は、令和4年度と変わらず4回以上のリピーターが約46.3%と最も多く、次いで初めてが約37.2%であった。

### (旅形態)

令和4年度に引き続き、家族旅行の割合が約54.5%と半数を占めた。次いでひとり旅（約14.3%）、友人との旅行（約13.9%）となった。

### (旅の準備期間)

1週間以内に計画している旅行者の割合が38.1%（前年比3.6%減）となった。九州・沖縄地方以外の来訪者割合が増えたことに伴い、1か月～3か月前に計画している旅行者が21.6%（前年比1.4%増）となり、令和4年度に引き続き増加している。

### (旅の情報源)

旅の情報源は、インターネットの情報30.3%、経験18.8%、紹介16.9%の順であった。旅行雑誌が令和4年度に比べ増加しており、要因としては旅の準備期間において中長期の計画による来訪が増加したことが考えられる。

### (旅の決定要因)

旅の決定要因は、グルメ33.9%、歴史文化23.1%、自然20.1%、が上位となった。具体的な訪問場所を見ても、からあげが多く、次いで中津城が多くなっている。

### (日帰り・宿泊)

日帰りの割合が、49.8%（前年比4.9%減）となり、宿泊の割合は市内、市外を含め全体の50.2%（前年比7.6%増）で、宿泊の割合が日帰りの割合よりも多くなった。市内宿泊は21.6%、市外宿泊は28.6%となった。

### (予算額)

全体（宿泊+日帰り）での平均値は33,657円となり、前年と比べ4,976円増額した。市内宿泊の平均予算額は増加し、市外宿泊の平均予算額はおよそ横ばいであったものの、日帰りの予算額は減少した。

### (交通手段)

前年と比べ、自家用車の割合は47.5%（前年比16.9%増）となった。電車（在来線）の割合が15.7%となった（前年比11.3%減）。

### (目的地)

からあげ店が42.6%（前年比11.6%増）と一番高い結果となり、次いで、中津城が39.5%（前年比17.1%増）、道の駅なかつが25.1%（前年比10.6%増）となった。前年で一番高かった一目八景（深耶馬溪）は、12.6%（前年比42.5%減）となった。

### (グルメ)

心に残ったグルメは、中津からあげが38.5%（前年比5.9%減）、鰻が5.6%（前年比2.9%減）となった一方で、そばは4.8%（前年比3%増）と増加した。無回答が25.1%（前年比8.5%増）となった。

### (中津への再来訪)

中津へ再び来たいと思う割合は、そう思う・まあ思うと回答した旅行者が95.6%だった。



### 3 調査結果の分析

#### ■来訪者属性（居住地、性別、年齢）

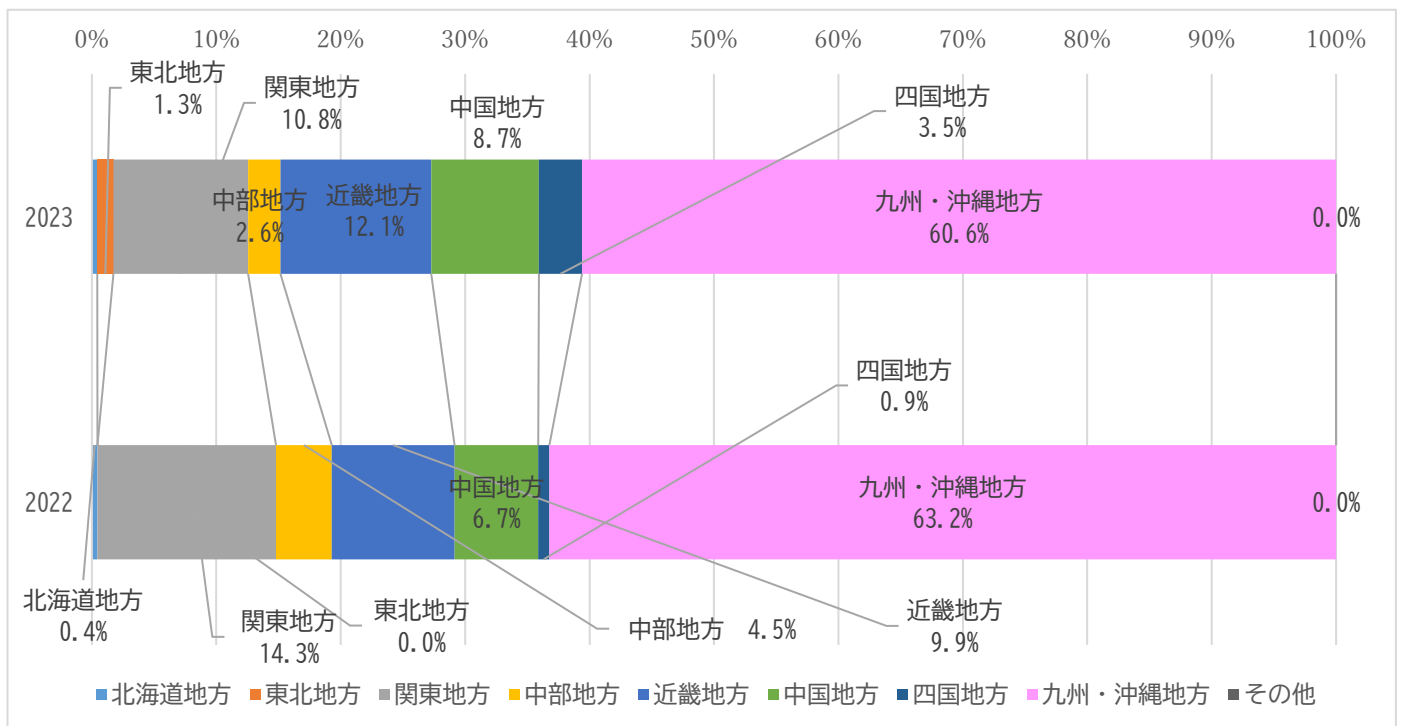
○居住地（記入方式）

居住地 都道府県： 市町村：

#### ●地方区分別（8地方区分）

大区分	中区分	今年度 人数	昨年度 人数	割合	前年割合 (参考)	増減
北海道	北海道地方	1	1	0.4%	0.4%	0.0%
本州	東北地方	3	0	1.3%	0.0%	1.3%
	関東地方	25	32	10.8%	14.3%	-3.5%
	中部地方	6	10	2.6%	4.5%	-1.9%
	近畿地方	28	22	12.1%	9.9%	2.3%
	中国地方	20	15	8.7%	6.7%	1.9%
四国	四国地方	8	2	3.5%	0.9%	2.6%
九州・沖縄	九州・沖縄地方	140	141	60.6%	63.2%	-2.6%
外国	その他	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
合計		231	223	100.0%	100.0%	

※一番割合が高い数値 赤色



●内訳（九州・沖縄）

県名	人数	割合	前年割合 (参考)	増減
福岡県	70	50.0%	57.4%	-7.4%
佐賀県	4	2.9%	3.5%	-0.7%
長崎県	5	3.6%	2.1%	1.4%
熊本県	8	5.7%	3.5%	2.2%
大分県	48	34.3%	31.9%	2.4%
宮崎県	2	1.4%	0.0%	1.4%
鹿児島県	1	0.7%	0.7%	0.0%
沖縄県	2	1.4%	0.7%	0.7%
合計	140	100.0%	100.0%	

※一番割合が高い数値 赤色

●自治体別上位

順位	都道府県名	市町村	人数
1	福岡県	北九州市	22
2	大分県	大分市	21
3	福岡県	福岡市	18
4	大分県	速水郡日出町	6
5	大分県	別府市	5
5	愛媛県	宇和島市	5
5	大分県	宇佐市	5

令和4年度より減少はしたものの、九州・沖縄地方からの来訪者が多く（R5：60.6%、R4：63.2%）全体の6割を占めているものの、近畿地方が全体の12.1%（前年比2.2%増）、中国地方が8.7%（前年比2%増）となっており、とりわけ近畿地方については2年連続での増加と、関心が強い傾向にあることがうかがえる。

九州・沖縄地方からの来訪者割合は、60.6%（前年比2.6%減）となっており、市町村別では、北九州市、大分市、福岡市が上位3位となっている。

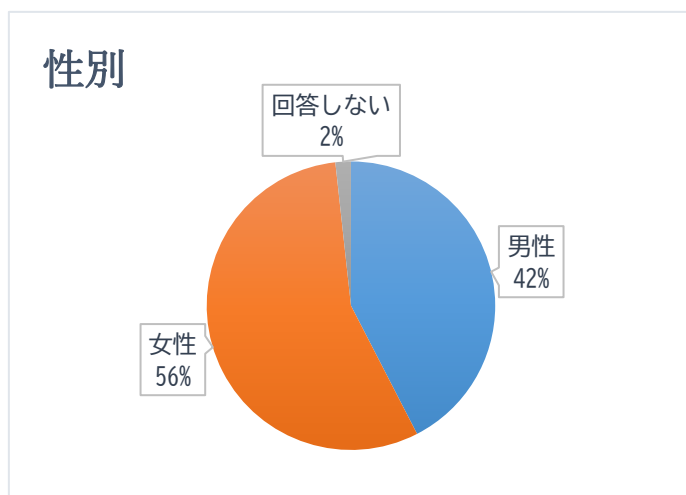
## ○ 性別・年齢

### ●性別

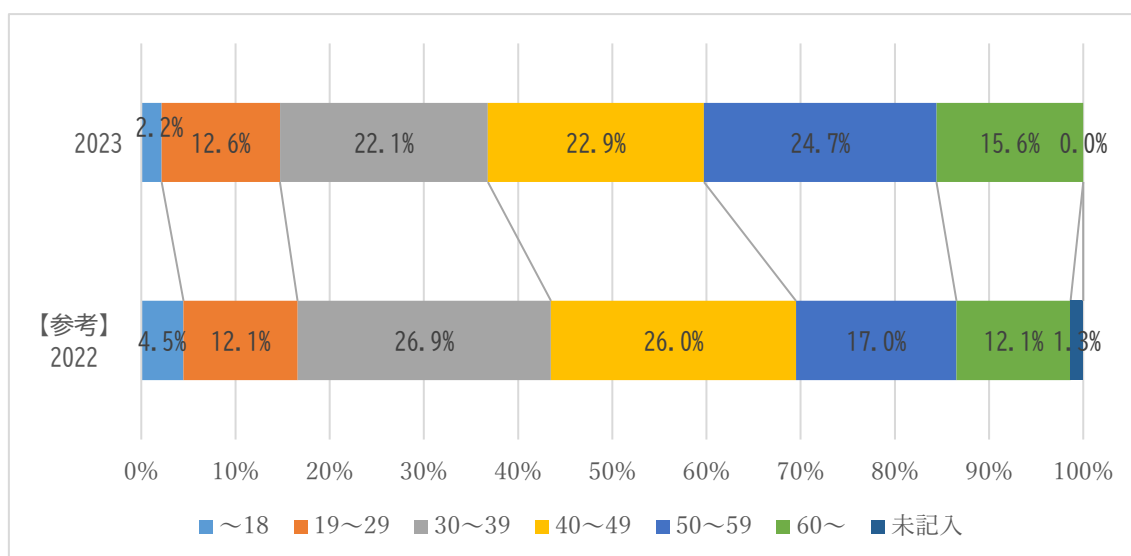
選択式

性別：  男性  女性  回答しない

男性98名 女性129名 回答しない4名 合計231名



### ●年齢別

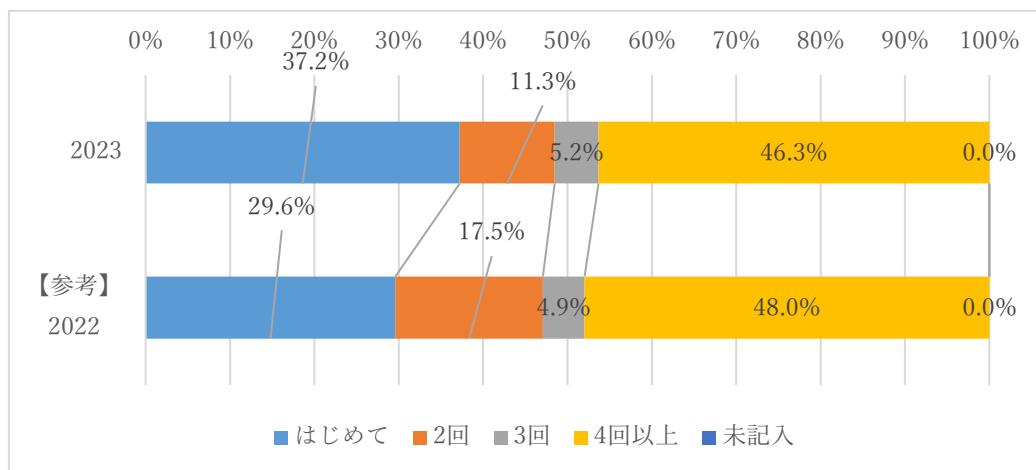


男女比は、4：6の割合となり、女性の割合の方が多くなっている。年齢別にみると、50代が7.7%増、60代以上が3.5%増となり、シニア層の観光客の増加が考えられる。その一方で30代、40代の割合が減少した。

問1. 今回の中津（耶馬溪を含む）旅行は何回目になりますか。（1つに✓印）

初めて  2回  3回  4回以上

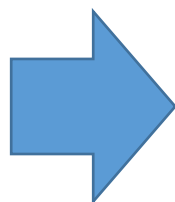
●旅行回数



●旅行回数（順位・都道府県）

初めて来る旅行者の割合が高い県

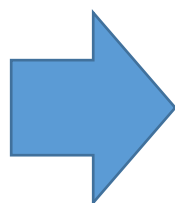
2022 順位	初めて	人数
1	福岡県	17
2	東京都	6
2	大阪府	6
4	大分県	5



2023 順位	初めて	人数
1	福岡県	11
1	東京都	11
3	兵庫県	8
3	大分県	8

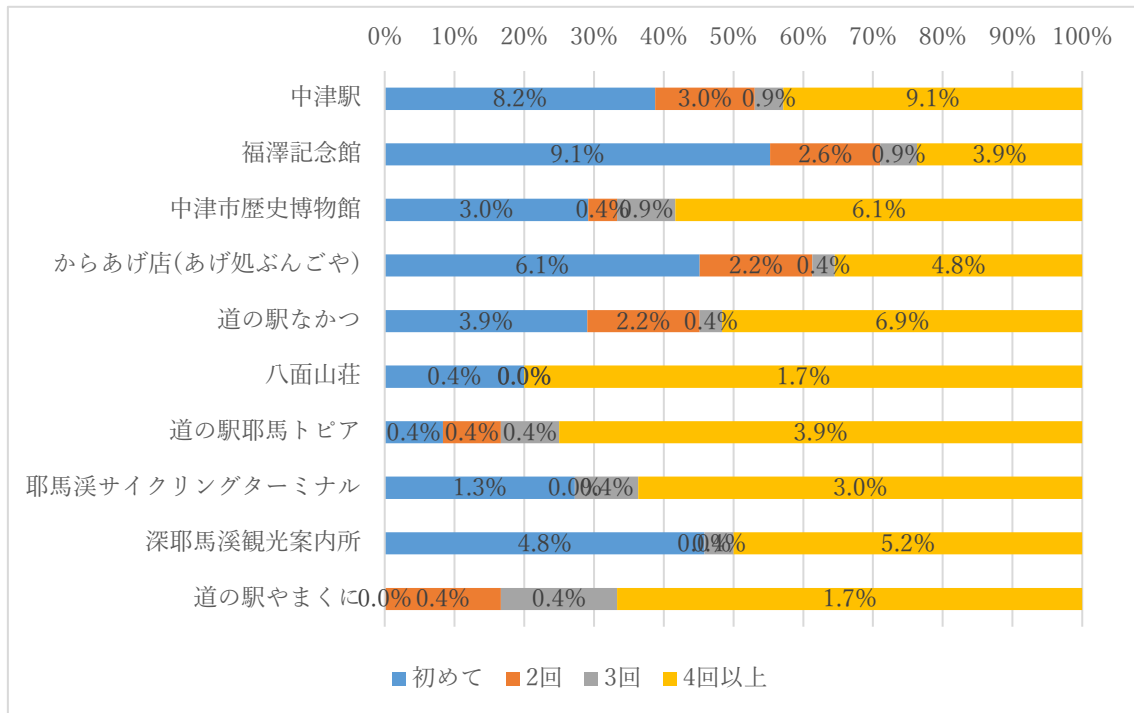
4回以上のリピーターの割合が高い県

2022 順位	4回以上	人数
1	福岡県	48
2	大分県	27
3	東京都	8
3	神奈川県	5



2023 順位	4回以上	人数
1	福岡県	44
2	大分県	33
3	山口県	5
3	大阪府	3

●旅行回数（調査場所別）



新型コロナウイルスの5類移行に伴い、初めて中津の観光地を訪問するケースが多くなっている。

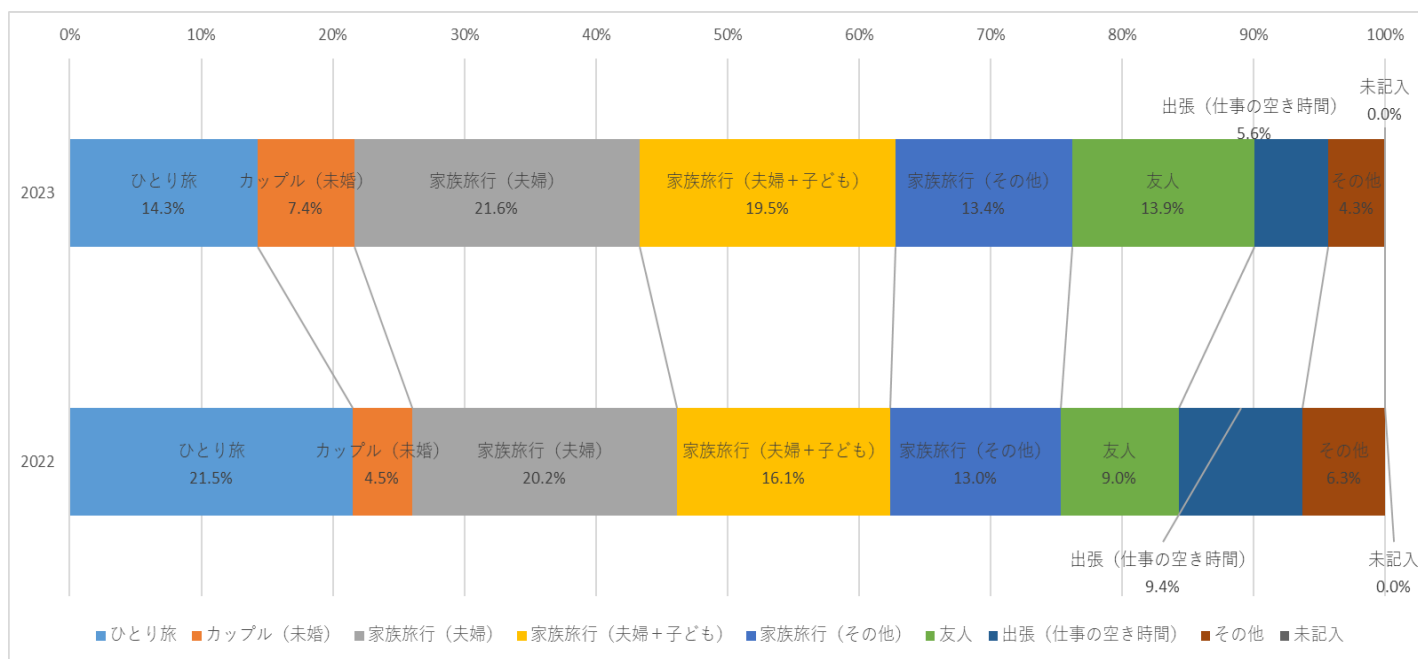
初めて中津に来訪した人の内、福澤記念館が全体の9.1%(前年比7.8%増)、からあげ店が全体の6.1%(前年比5.7%増)、深耶馬溪観光案内所が全体の4.8%(前年比4.8%増)となっている。また4回以上訪問しているリピーターについても、観光地を訪れた方の割合が、軒並み増加するなど、徐々にコロナ前の状況に戻りつつある。増加旅行回数が「初めて」と「4回以上」の都道府県別の順位を見ると、どちらも令和4年同様、福岡県が1位となっているものの、東京都も同数となっており、また兵庫県が3位と近畿地方が令和4年度に続いて大分県と同じくらい中津を訪れていることがわかる。

調査したスポット別に、訪問回数を見ると、「初めて」の回答は福澤記念館が最も多くなっている。また、「4回以上」の回答はほとんどすべてのスポットで令和4年度を越える結果となった。

問2. 今回の旅はどれに該当しますか。(1つに✓印)

- ひとり旅   カップル（未婚）   家族旅行（夫婦）   家族旅行（夫婦+子ども）  
家族旅行（その他）   友人   出張（仕事の空き時間）   その他

●旅形態

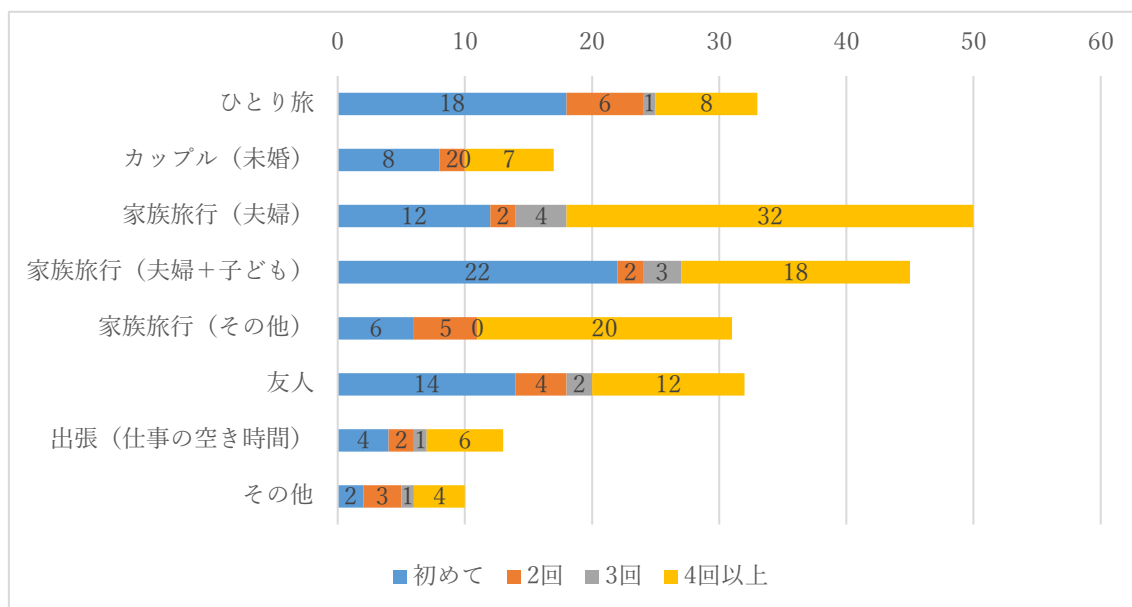


●年齢（構成別）

	～18	19～29	30～39	40～49	50～59	60～	未回答
ひとり旅	0.0%	2.2%	1.7%	3.5%	5.6%	1.3%	0.0%
カップル（未婚）	0.0%	3.0%	1.3%	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%
家族旅行（夫婦）	0.0%	0.4%	1.7%	4.3%	9.5%	5.6%	0.0%
家族旅行（夫婦+子ども）	1.3%	2.2%	6.1%	6.5%	2.2%	1.3%	0.0%
家族旅行（その他）	0.9%	2.2%	3.9%	2.6%	3.0%	0.9%	0.0%
友人	0.0%	0.9%	4.3%	2.2%	1.7%	4.8%	0.0%
出張（仕事の空き時間）	0.0%	0.0%	1.7%	0.9%	1.7%	1.3%	0.0%
その他	0.0%	1.7%	1.3%	0.0%	0.9%	0.4%	0.0%
合計	2.2%	12.6%	22.1%	22.9%	24.7%	15.6%	0.0%

※一番割合が高い数値 赤色

●旅形態（旅行回数別）



家族旅行の割合が合計で54.5%と半数を占め、令和4年度に比べ5.2%割合が上昇した。一方で出張が5.6%(R4:9.4%)となり、観光での来訪が増加していることがうかがえる。

年齢別に見ると、50～59歳の家族旅行(夫婦)及び30～39歳、40～49歳の家族旅行(夫婦+子ども)が多く、「家族旅行」という枠で見ると、50代が合計14.7%と最も多い。

また、旅形態を旅行回数別に見てみると、ひとり旅は、中津に来訪するのが初めての割合が引き続き多く、また夫婦と子ども、友人同士、カップルでの旅行についても、初めての来訪が多くなっている。一方その他は4回以上のリピーターの割合が多くなっている。



問3. 今回の旅はいつ計画しましたか。(1つに✓印)

- 1週間以内    1週間～2週間前    3週間～1ヶ月前    1ヶ月～3ヶ月前  
 3ヶ月以上前

●旅の準備期間（全体・各項目上位都道府県）

項目	人数	割合	前年割合 (参考)	1位	2位	3位
1週間以内	88	38.1%	34.5%	大分県(35)	福岡県(29)	熊本県(6)
1週間～2週間前	38	16.5%	23.3%	福岡県(16)	山口県(4)	東京都(2)
3週間～1ヶ月前	39	16.9%	13.5%	福岡県(11)	大分県(6)	愛媛県・兵庫県(3)
1ヶ月～3カ月前	50	21.6%	20.2%	福岡県(12)	東京都・ 山口県(6)	大分県・大阪府(4)
3カ月以上前	16	6.9%	8.5%	東京都 他3県(2)	北海道 他7県(1)	
合計	231	100%	100%			

※一番割合が高い数値 赤色

令和4年度と同様に、1週間以内に計画する割合が最も多く、大分県内と隣県福岡県が多くを占めている。準備期間が長くなればなるほど遠方からの来訪人数が多くなっているが、今年度については、準備期間が短い遠方からの来訪も多くなっているため、大分県内や隣県の福岡県以外の地域でも、急な旅行でも行先候補に挙がるなど、認知度が以前より上がっていることが考えられる。

問4. 今回の旅の情報源を教えてください。(複数回答可)

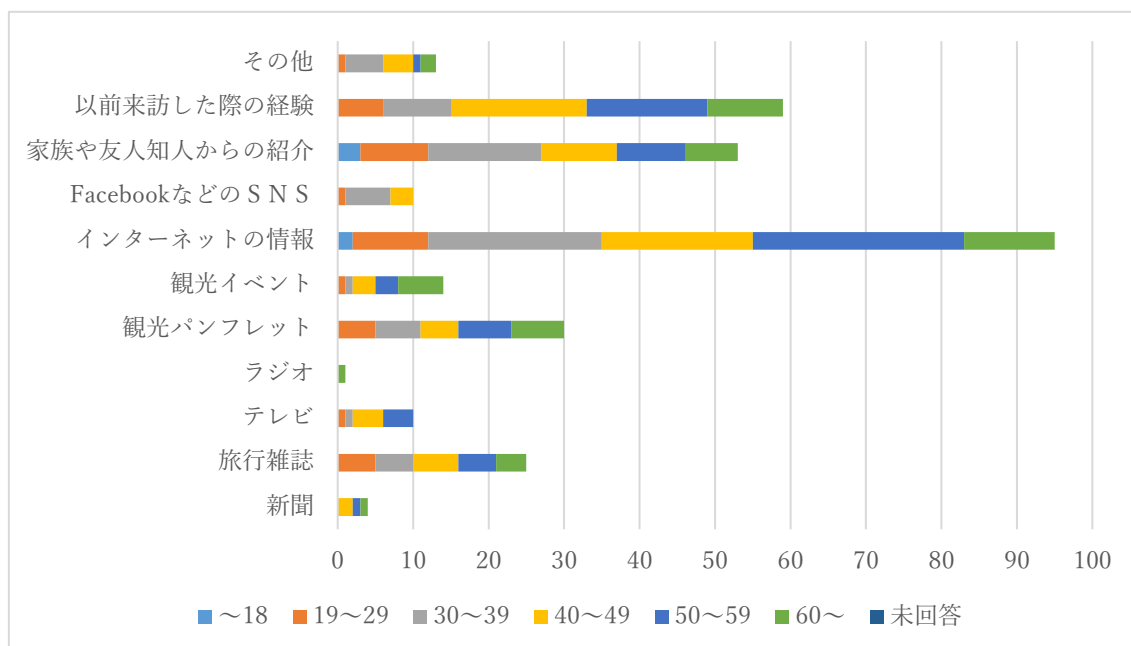
新聞                       旅行雑誌  
 テレビ                       ラジオ  
 観光パンフレット       観光イベント  
 (媒体名・イベント名：                      )  
 インターネット情報 (媒体名：                      )  
 Facebook などの SNS (媒体：                      )  
 家族や友人知人からの紹介  
 以前来訪した際の経験

●旅の情報源 (具体例)

	人数	割合	前年割合 (参考)	具体例
新聞	4	1.3%	0.9%	大分合同新聞・朝日新聞
旅行雑誌	25	8.0%	5.1%	じゃらん、るるぶ、まっがる
テレビ	10	3.2%	2.8%	TNC・TVQ 番組
ラジオ	1	0.3%	0.3%	—
家族や友人知人からの紹介	53	16.9%	11.1%	同窓会
観光イベント	14	4.5%	4.0%	コスモス祭り
インターネットの情報	95	30.3%	30.4%	Google、楽天、るるぶ、ヤフー
Facebook などの SNS	10	3.2%	11.1%	Instagram、Facebook
以前来訪した際の経験	59	18.8%	16.5%	—
観光パンフレット	30	9.6%	14.5%	るるぶ
その他	13	4.1%	3.4%	—
合計	314	100.0%	100.0%	

※一番割合が高い数値 赤色

## ●旅の情報源（年齢別）



### ※横軸は回答数

インターネットの情報が令和4年度に引き続き30%を超える割合を占めているものの、以前来訪した際の経験(18.8%)や家族や友人・知人からの紹介(16.9%)のようにインターネットや雑誌などの媒体を利用しない対人での情報共有の割合が合計で35.7%となり、インターネットの情報を上回る結果となった。

新聞・ラジオ・テレビは令和4年度に引き続き低い割合となった。

年齢別にみると、40代以上のインターネットでの情報収集が多くなっており、年齢によるネット使用の違いは見られない。

問5. 今回の旅の決定要因を教えてください。(複数回答可)

- グルメ (具体例: )       自然等 (具体例: )  
 歴史・文化 (具体例: )       イベント (具体例: )  
 宿泊施設 (具体例: )       その他 (具体例: )

●旅の決定要因 (具体例 (一部))

	2023	2023 割合	2022 割合	具体例(抜粋)
グルメ	123	33.9%	34.3%	からあげ(49名)・はも(6名)・そば(4名)
自然等	73	20.1%	23.7%	耶馬溪関連(15名)・紅葉(7名)・温泉(4名)
歴史・文化	84	23.1%	20.3%	中津城(18名)・福澤諭吉関連(11名)
イベント	27	7.4%	10.3%	三光コスモス園(3名)・埼玉県深谷市公式キャラクター登場イベント(3名)
宿泊施設	22	6.1%	3.6%	市外宿泊(4名)
その他	34	9.4%	7.8%	帰省等(5名)・マンホールカード集め(3名)
合計	363	100%	100%	

※一番割合が高い数値 赤色

令和4年度に引き続き、グルメの割合が30%を超えている。そのほとんどがからあげを目的としており、新型コロナウイルスの5類移行に伴い、からあげ店巡りを行う方が増えていることがわかる。

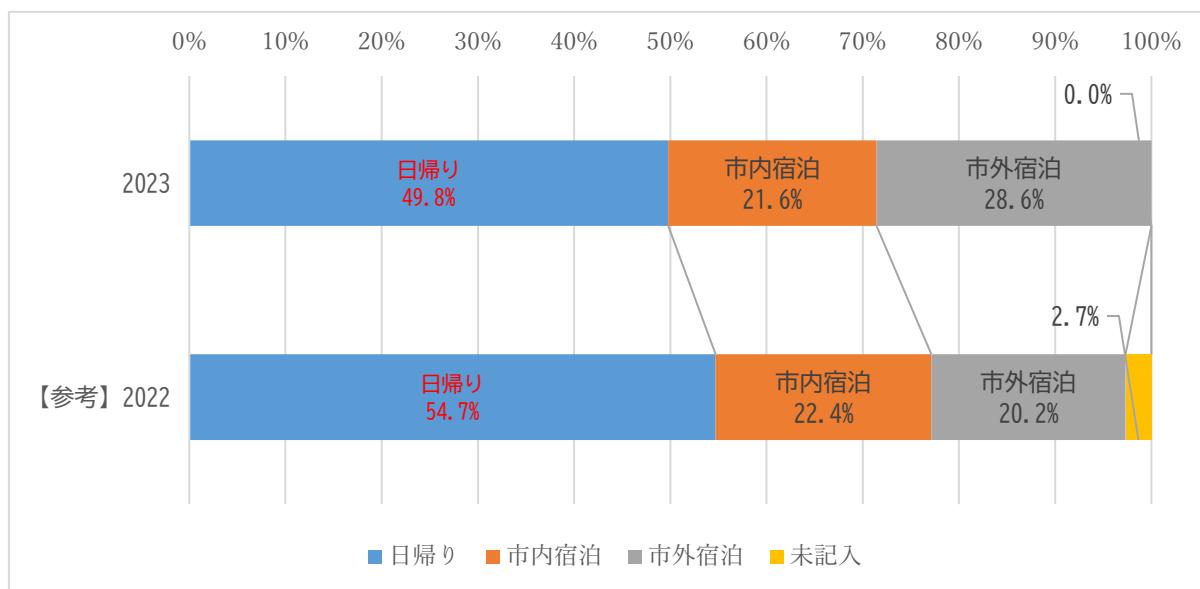
また歴史・文化を目的とした来訪者の割合が増加しており、不滅の福澤プロジェクトによる観光PRの効果が少しずつ出ていることが考えられる。

その他の傾向として、城やマンホールカードなど、コレクターの方による来訪も令和4年度より増えていた。

問6. 今回の旅はどれに該当しますか。(1つに✓印)

日帰り (滞在時間: 時間)  
 市内宿泊 (ホテル名 ) (泊 )  
 市外宿泊 (都道府県: 市町村: )

●日帰り・宿泊



※一番割合が高い数値 赤色

●日帰り・滞在時間

	人数	割合	前年割合 (参考)
2 時間未満	4	3.5%	4.9%
2 時間～4 時間未満	17	14.8%	13.9%
4 時間～6 時間未満	16	13.9%	16.4%
6 時間以上	18	15.7%	14.8%
未記入	60	52.2%	50.0%
合計	115	100.0%	100.0%

※未記入を除き一番割合が高い数値 赤色

●市内宿泊・泊数

	人数	割合	前年割合 (参考)
1泊	32	64.0%	52.0%
2泊	6	12.0%	16.0%
3泊	1	2.0%	14.0%
4泊以上	8	16.0%	8.0%
未記入	3	6.0%	10.0%
合計	50	100.0%	100.0%

※一番割合が高い数値 赤色

●市外宿泊・宿泊地 (複数回答有)

順位	宿泊地		人数	割合
1	大分県	別府市	19	28.8%
2	大分県	大分市	8	12.1%
3	大分県	由布市	6	9.1%
4	大分県	国東市	5	7.6%
4	福岡県	北九州市	5	7.6%
6	大分県	宇佐市	3	4.5%
7	熊本県	天草市	2	3.0%
7	熊本県	熊本市	2	3.0%
7	熊本県	小国町	2	3.0%
7	福岡県	朝倉市	2	3.0%
7	鹿児島県	鹿児島市	2	3.0%
12	大分県	竹田市	1	1.5%
12	大分県	日出町	1	1.5%
12	大分県	豊後高田市	1	1.5%
12	福岡県	福岡市	1	1.5%
12	福岡県	吉富町	1	1.5%
12	福岡県	上毛町	1	1.5%
12	熊本県	八代市	1	1.5%
12	熊本県	阿蘇市	1	1.5%
12	熊本県	南阿蘇村	1	1.5%
12	未記入		1	1.5%
合計			66	100.0%

【参考】前年上位

順位	宿泊地		人数	割合
1	大分県	別府市	15	32.6%
2	大分県	大分市	4	8.7%
2	大分県	宇佐市	4	8.7%
2	大分県	日田市	4	8.7%
2	大分県	竹田市	4	8.7%
6	福岡県	福岡市	2	4.3%

令和4年度に比べ、日帰り旅行が4.9%減となり、市内宿泊者の割合も0.8%減となったものの、市外宿泊は8.4%増加し、宿泊者の増加傾向が続いているのと同時に、通過型観光での来訪者の増加が顕著となっている。

日帰り旅行者は、令和3年度は2時間～4時間未満が、令和4年度は、4～6時間未満が最も多く、令和5年度については6時間以上が最も多くなっていることから、滞在時間が少しずつ伸びていることがわかる。

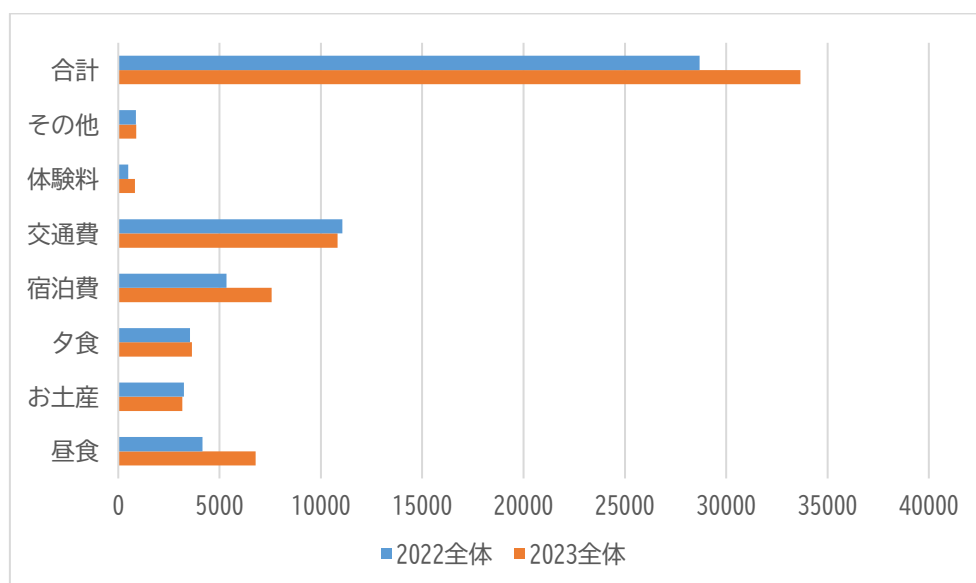
市外宿泊者の宿泊地は、前年同様別府市が最も多く、大分県内に宿泊する旅行者が来訪する割合が多くなっているものの、熊本県に宿泊する旅行者が来訪するケースも増えており、立寄型観光での来訪者の範囲が広がっている傾向にある。

問7. 今回の旅全体の予算額を教えてください。(おひとり様あたり：平均額)

	昼食	お土産等	夕食	宿泊費	交通費	体験料	その他 (入館料) など	合計
2023全体	6,773	3,157	3,633	7,562	10,817	830	884	33,657
2023宿泊(市内)	17,744	5,163	8,239	10,077	18,668	2,534	1,170	63,595
2023宿泊(市外)	6,407	4,202	4,886	19,096	20,018	798	1,600	57,007
2023日帰り	2,457	1,776	1,071	383	2,688	147	386	8,907
2022全体	4,150	3,246	3,534	5,339	11,059	490	864	28,681
2022宿泊(市内)	4,466	3,936	6,689	8,886	17,136	684	648	42,445
2022宿泊(市外)	7,198	3,942	6,828	13,963	22,259	647	2,321	57,157
2022日帰り	2,858	1,771	969	449	3,984	338	379	10,748

2023年は、全体(宿泊+日帰り)で33,657円となり、前年と比べ4,976円増加した。この増加要因については、昼食代(前年比約63%増)及び宿泊費(前年比約41%増)となっている。一方、減少している項目の内、交通費については、レンタカーや自家用車などでの来訪が増えているため、消費額が抑えられていることが考えられる。

また形態別にみると市内宿泊者の予算額が増加(前年比約50%増)となっており、滞在期間の増加が予算額増加につながる事がわかる。





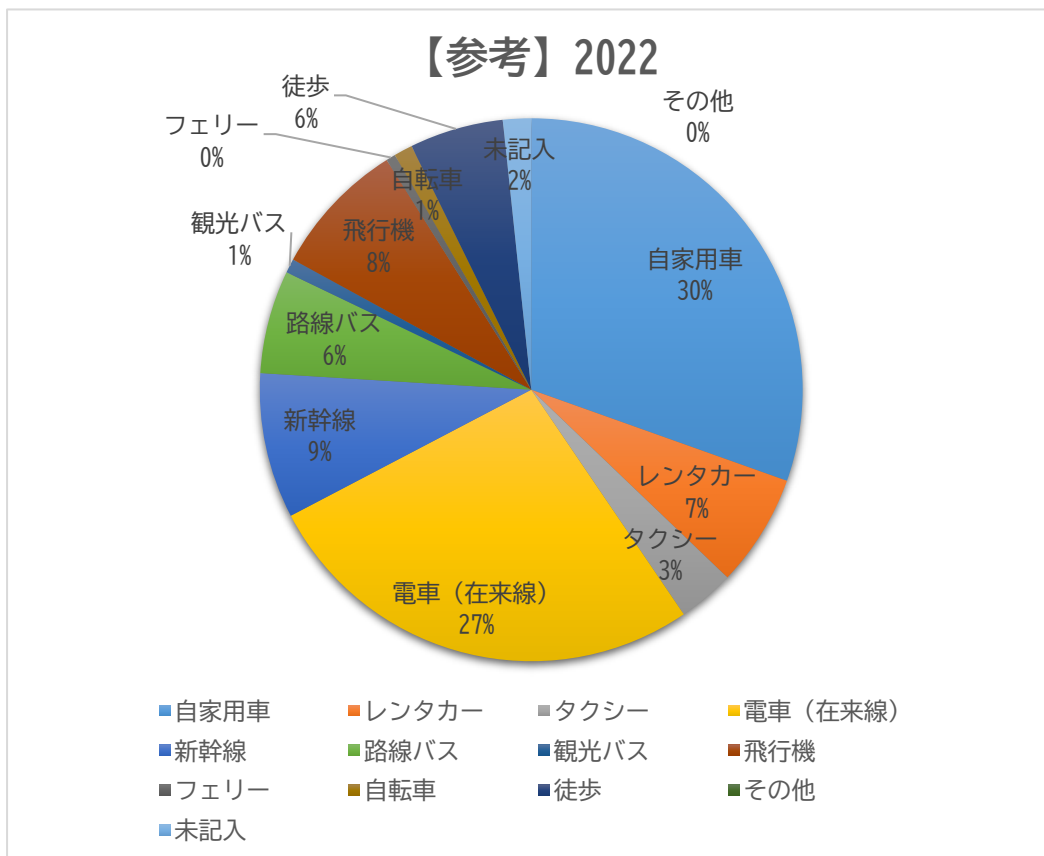
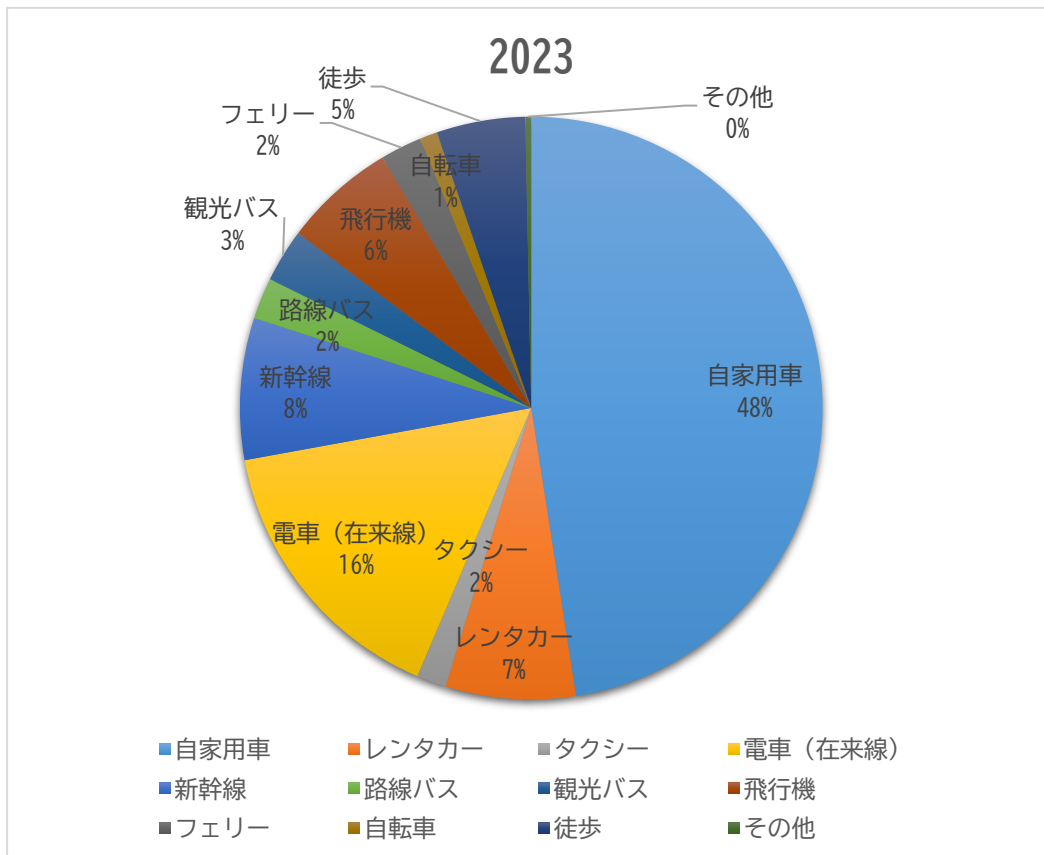
問8. 今回の旅の交通手段を教えてください。(複数回答可)

自家用車    レンタカー    タクシー    電車（在来線）    新幹線    路線バス  
観光バス    飛行機    自転車    徒歩    その他（        ）

●交通手段 ※複数回答有

	人数	割合	前年割合（参考）
自家用車	145	47.5%	30.6%
レンタカー	22	7.2%	6.7%
タクシー	5	1.6%	3.4%
電車（在来線）	48	15.7%	27.0%
新幹線	24	7.9%	8.7%
路線バス	7	2.3%	6.2%
観光バス	9	3.0%	0.8%
飛行機	19	6.2%	8.1%
フェリー	7	2.3%	0.6%
自転車	3	1.0%	1.1%
徒歩	15	4.9%	5.6%
その他	1	0.3%	0.0%
未記入	0	0.0%	1.7%
合計	305	100.0%	100.0%

※一番割合が高い数値 赤色

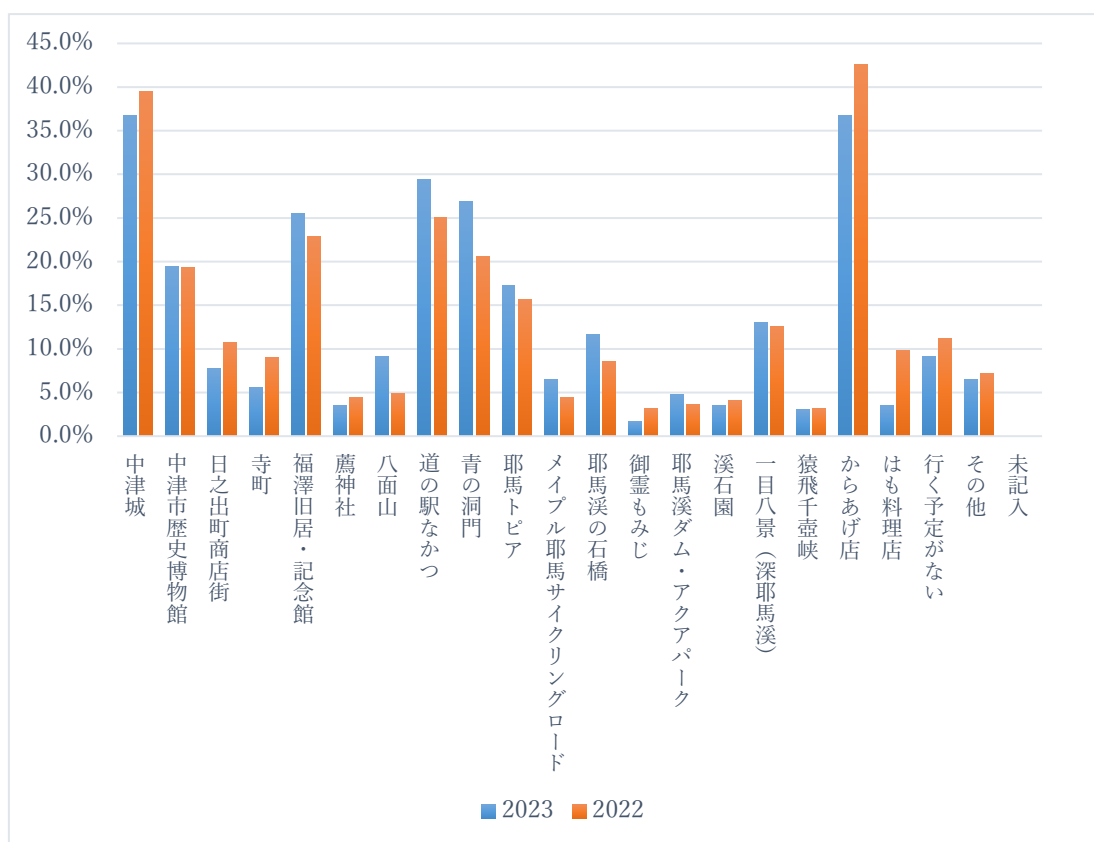


令和4年度に大幅に減少した自家用車の割合が16.9%増加し、47.5%となった。

またレンタカーの割合も微増となり、自家用車とレンタカーで全体の54%を占めている。これは日帰り旅行者・市外宿泊者が立寄型観光を行う上で、公共交通よりも自家用車やレンタカーなどを利用する方が移動しやすいことがあげられる。またフェリーでの来訪者も増えていることから、関西・関東圏から自家用車でフェリーに乗って来訪するケースも考えられる。

問9. 今回の旅では、中津の観光地でどこを訪れます(した)か。(複数回答可)

- |                                   |  |                                  |
|-----------------------------------|--|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 中津城      | <input type="checkbox"/> 中津市歴史博物館        | <input type="checkbox"/> 日之出町商店街 |
| <input type="checkbox"/> 寺町       | <input type="checkbox"/> 福澤旧居・記念館        | <input type="checkbox"/> 薦神社     |
| <input type="checkbox"/> 八面山      | <input type="checkbox"/> 道の駅なかつ          | <input type="checkbox"/> 青の洞門    |
| <input type="checkbox"/> 耶馬トピア    | <input type="checkbox"/> メイプル耶馬サイクリングロード | <input type="checkbox"/> 耶馬溪の石橋  |
| <input type="checkbox"/> 御霊もみじ    | <input type="checkbox"/> 耶馬溪ダム・アクアパーク    | <input type="checkbox"/> 溪石園     |
| <input type="checkbox"/> 一目八景     | <input type="checkbox"/> 猿飛千壺峡           | <input type="checkbox"/> からあげ店   |
| <input type="checkbox"/> 鱧(はも)料理店 | <input type="checkbox"/> その他             |                                  |



前年と比べ、道の駅なかつや道の駅耶馬トピア、青の洞門の割合が増加している。

この変化は、問8での交通手段における自家用車及びレンタカーを利用した来訪者が増えていることが要因の一つであると考えられる。

平均訪問は、前年（2.39回）よりも増加し、2.77回であった。滞在時間の増加により、1か所のみでの訪問やどこも訪問しないことが減少していることが要因として挙げられる。

問10. 今回の旅で一番心に残ったグルメを教えてください。(自由記述)

料理名 ( ) 店名 ( )

●グルメ

令和5年度についてはからあげの割合が減少したものの以前40%近い割合となっており、からあげへの関心と現地での印象が高いことがうかがえる。

項目	人数	割合	【参考】 昨年度割合
からあげ	89	38.5%	44.4%
はも	13	5.6%	8.5%
そば	11	4.8%	1.8%
スイーツ	10	4.3%	
カレー	7	3.0%	
まだ食べていない	12	5.2%	
その他	31	13.4%	
未記入	58	25.1%	16.6%
合計	231	100.0%	

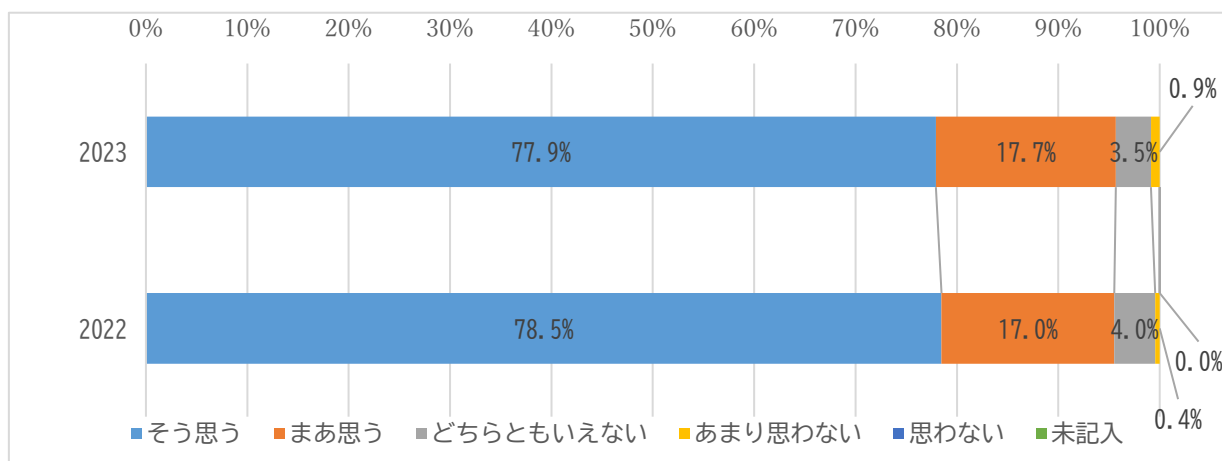
問11. 再び、中津に旅行に来たいと思いますか？

そう思う  まあ思う  どちらともいえない  あまり思わない  思わない

●中津への再来訪 回答率：100%

回答	2023	【参考】2022
そう思う	77.9%	78.5%
まあ思う	17.7%	17.0%
どちらともいえない	3.5%	4.0%
あまり思わない	0.9%	0.4%
思わない	0.0%	0.0%
未記入	0.0%	0.0%
合計	100.0%	100.0%

※一番割合が高い数値 赤色



旅の満足度を図る目的で、再来訪の意向を確認している。中津へ再び来たいと思う割合は、前年のそう思う78.5%、まあ思う17.0%の合計95.5%に対し、そう思う77.9%、まあ思う17.7%の合計95.6%となり、前年に引き続き95%を超えている。

問12. 中津市内の観光で困ったことはありますか。(自由記述)

集計結果は下記の通り

回 答	人数	具体例 (一例)
特になし	45	
アクセス・交通について	29	バスの本数が少ない、バスで行けない名所がある、わかりにくい
環境について	22	コンビニが少ない、キャッシュレス未対応店舗、からあげ店の場所がわかりにくい
お食事処について	4	満席のお店が多い、店内でからあげを食べれるところが少ない
駅について	4	飲食できる店がない
観光施設について	6	館内が暑い、公衆トイレが少ない
宿泊施設について	2	宿泊施設が少ない、Wi-Fi がないところがあった
その他	10	紅葉が終わっていた、朝早く開いている場所がない
ポジティブな意見	6	綺麗な街だった、おいしいものが多い

## 4 本調査総括

### (1) 新型コロナウイルスの影響について

令和5年度アンケート開始直後5月の新型コロナウイルス5類移行により、影響を受けない中での初の設置型アンケートとなったため、前年よりも遠方から来ている人数が多くなっている。また令和4年度は半数以上が中津駅での回答であったが、令和5年度については道の駅や福澤記念館・からあげ店など、市内観光施設での回答者が増えていることから、観光施設への来場者数が昨年よりも上昇したことがうかがえる。

### (2) 令和5年度との比較について

- ①新型コロナウイルス5類移行により、北海道や沖縄など、遠方から来る人数も多くなり、特に隣県の福岡県及び大分県内の方に次いで3番目に東京都からの方が多しなど、令和4年度からさらに広域からの来訪客が増えている。
- ②観光客が増えている一方で、令和5年度設置型アンケート調査の回答者数は、令和4年度とほぼ同数となった。令和4年度と同数の回答者数にとどまった点については、調査を周知させることができていないことが要因の一つであることが見込まれるため、周知活動の拡大と、調査場所の精査を随時行っていく。
- ③令和4年度は年齢のボリュームゾーンが30代、40代と若年化していたが、令和5年度については、50代が最も多くなっており、60代も増えていることから、シニア世代の観光客が増加していることがうかがえる。
- ④旅の目的については、令和4年度に比べ「宿泊施設」が増加している。旅の形態項目において、市内宿泊の人数は令和4年度と同数であるものの、市外宿泊の人数が増加しているため、宿泊を伴う旅行が増加していることがうかがえる。また市内では、市外に宿泊する際に途中で立ち寄る立寄型観光も増加傾向にあることがうかがえる。
- ⑤グルメに関する調査項目において、未記入及びまだ食べていないと回答する方が増加している。これは④で述べた立寄型観光増加に伴い、昼食時間前に立ち寄り、そのまま別の場所にて食事をする方が増えていることが要因の一つであると考えられる。
- ⑥旅の予算が令和4年度に比べ平均で4,976円増加した要因としては、長期休暇を取りやすくなったことで、長期宿泊者が増加していることがあげられる。アンケートでも市内に4泊以上長期滞在をする人が昨年よりも増加している。一方、日帰りでの来訪については、宿泊者と同様に長時間滞在する人が増加しているにも関わらず、滞在時の予算額が令和4年度に比べ1,841円減少していることから、予算額と滞在時間が必ずしも比例しないことが考えられる。

(3) その他について

SNS やインターネットについては、令和5年度も引き続き回答者の多くが情報収集に利用しているため、今後も SNS 及びインターネットは市の PR を行う上で効果的な媒体の一つとなる。一方家族や友人・知人の紹介や以前来訪した際の経験で来訪した方も多くなっているため、いかに良い印象を持って旅をして頂くことができるかも大切な要素となる。

**【今後の取り組み】**

市外宿泊を目的としての立寄型観光が増加していることをふまえ、より長く滞在してもらえるよう市内周遊を促すような取組を行い、滞在時間の延長、市内宿泊者数の増加を図る必要がある。

以上